



中部農林だより

元気の芽



新たな門出のお祝いに みやざきワインを

みなさんは、宮崎県にいくつワイナリーがあるかご存じですか？

焼酎王国宮崎県ですが、1994年に綾町に綾ワイナリー（現・雲海葡萄酒醸造所）がオープンしたのを皮切りに、北から五ヶ瀬ワイナリー（五ヶ瀬町）、都農ワイン（都農町）、香月ワインズ（綾町）、小林生駒高原葡萄酒工房（小林市）、都城ワイナリー（都城市）と6か所のワイナリーがあり、それぞれ特色のあるおいしいワインを製造されています。

これからの異動・就職シーズンや特別な日の贈り物に、宮崎のワインはいかがでしょう。



今回の元気の芽では、本県初の無農薬栽培日向夏を使用したワイン「あやてらす」（香月ワインズ（綾町））を御紹介します

All About あやてらす

「あやてらす」を製造している香月ワインズ（香月克公社長）は、綾町にある少量生産の手造りナチュラルワインに力を入れる家族経営のワイナリーです。

令和4年12月8日に新商品「あやてらす」の販売が開始されると、製造された500本余りのワインはアツという間に売り切れてしまいました。

この「あやてらす」は、ブドウではなく綾町特産の日向夏を原料としたワインです。

綾町の就労継続支援B型事業所「わーくすぽっとAya」の皆さんが無農薬で栽培した日向夏を100%使用し、香月ワインズらしく無添加・無濾過で仕込み、仕上げた一品です。

日向夏ワイン「あやてらす」
(写真は綾町facebookより)



たわわに実るわーくすぽっとAyaの無農薬栽培日向夏

きっかけはひよんなことから

令和4年3月のある日のこと。香月社長が仲間たちと飲んでいたら、「蜜柑でワイン造れるの?」「綾町の日向夏で作れるなら作って欲しい!」という話が持ち上がりました。

この話が綾町役場を通して中部農業改良普及センターに持ち込まれたのが、普及センターが指導を行っていた「わーくすぽっとAya」の無農薬栽培の日向夏との出会いでした。

一般的に、ワイン用のブドウの糖度は20~25度と生食用ブドウよりもずっと高く、酸、渋み、フレーバーのバランスが取れていることがとても大事ですので、多くの酸を含んでいる品種が用いられます。

一方、宮崎県発祥の日向夏は、ゆずを親に持つといわれており、酸や渋み、フレーバーは豊かですが、糖度は11~12度しかありません。しかも、皮は厚く、種子もたくさん入っています。採算にあう搾汁率が得られるのか、低い糖度で果たしてうまく発酵してくれるのか・・・不安は尽きませんでした。



わーくすぽっとAya松竹代表(左)と香月社長(右)



わーくすぽっとAyaの日向夏園で作業する利用者の皆さん。収量を増やすため、手作業で受粉します。

この日向夏は、10年近く耕作放棄されていた日向夏園地を7年かけて再生し、ここ数年でようやく着果できるようになったもの。福祉関連イベントで販売していましたが、コロナ禍でイベントが無くなり、1.6tの出荷先に困っている時だったので、みんなでチャレンジしてみようということになりました。

大変だったこと

苦労した搾汁

県食品開発センターの研究員の指導を受けながら、併設されているフードオープンラボの搾汁機をレンタルし、「わーくすぽっとAya」の利用者の皆さんや普及センター職員も総出で搾汁を行いました。しかし、残念ながらフードオープンラボでの搾汁率は3割にも達しませんでした。

そのため、絞り粕をワイナリーに持ち帰り、ブドウ搾汁器で絞り直してみることに。その結果、搾汁率はようやく4割を超すことができました。



フードオープンラボでの搾汁



ワイナリーでの絞り直し

発酵は賭け

黄色い日向夏の果皮は、渋みやフレーバーをたくさん含んでいるため、ブドウのように押しつぶして搾汁すると、渋すぎて飲めないワインになるリスクがありました。しかし、新商品として継続するための採算性も追求しなければならず、賭けにでるしかありませんでした。

香月ワインズでは、発酵にはブドウの皮や空気中に存在している野生酵母を使用していますが、糖度が高いブドウでも野生酵母での発酵は難しく、毎年、不眠不休で発酵温度の管理をしています。「わーくすぽっとAya」の日向夏は、4月中旬まで樹上で完熟させて収穫するので、糖度は13度と高いのですが、それでもブドウの半分ほどでしかありません。

不安な気持ちで見守る中、最初のごくわずかでしたが、ゆっくりゆっくりと発酵が始まりました。

そして、約1ヶ月後の6月上旬、瓶詰めし、低温での2次発酵に辿り着きました。この段階まで来て初めてワインになりそうだという実感が湧いてきました。

そして完成のとき

半年間の2次発酵と熟成の時を経て、いよいよテイ
スティング。その味は――

香月ワインズ、ワークスポットAya、普及セン
ターのチーム全員がビックリするくらい、日向夏の香
り豊かで、深いワインの味を堪能できる一品に仕上
がっていました。しかも、沈殿した澱（オリ）と混ぜ
ると優しい日向夏の黄色になります。



緊張のテイスティング

「あやてらす」に込められた思い

「あやてらす」という名前は、何かと不穏な国内外の
情勢を綾町から「日向夏」の明るい光で照らしてい
こうというチーム全員の思いを表しています。

ラベルは、福祉事業所利用者の方々に日向夏園でス
ケッチをしていただいた絵を元にデザイナーさんに仕
上げていただきました。

あやてらす
AYA
TERRACE



12月6日には、あやてらす発売を知事に報告

12月8日からワイナリーでの直接販売や綾町ふる
さと納税、酒販店で販売されましたが、いずれ
も好評につき今期の販売は終了。来年の販売を待
ちわびる声がたくさん届いています。

手探りで進めてきたプロジェクトですが、福祉
事業所の利用者の皆さんの笑顔がチーム全員の背
中を押してくれなければ仕上がらなかったワイン
です。

皆さんも、ぜひ今秋をお楽しみに！

[地域支援課]



香月ワインズとわーくすぽっとAyaの皆さん
このチームで、次は場外ホームランとなる商品を作ろうと
日々研鑽されています。

農村計画

持続可能な魅力ある農業の実践に向けて ～営農構想発表会～

持続的な地域農業の発展のためには、地域の農業者
自らが、将来の営農構想を思い描き、ほ場整備等を展
開していくことが最も重要になります。

令和5年1月31日（火）、県土地改良会館において、
情報共有と波及を目的とした営農構想発表会が開催さ
れました。

中部管内からは、新名爪地区の石川治男さんが、
「未来の地域農業を守るために私たちにできること」
と題して、事業化までに至る経緯や営農計画、集積計
画などについて事例発表を行いました。

「持続可能な魅力ある農業の実現」に向けて、関係
者一丸となって取り組んでいきます。

[農村計画課]



新名爪地区基盤整備事業推進委員会の石川治男委員長が
関係者約160名を前に発表。今後ほ場整備に取り組む
地域等と活発な質疑応答が交わされました。

令和4年度（第61回）農林水産祭 長倉良守氏が内閣総理大臣賞を受賞！

農林水産省、（公財）日本日本農林漁業振興会が主催する農林水産祭の林産部門で、宮崎市田野町の長倉良守さんが、見事、天皇杯等三賞の1つである内閣総理大臣賞を受賞されました。

ここがスゴイ！



安定した苗木供給

品種の明確な穂木（挿し木用の枝）を大量に調達する仕組みを作り、年100万本程の安定した挿し付けを実現



新技術！枝の冷蔵、空中発根（通称：エアざし）

夏場の冷蔵貯蔵技術や、培土を使わない発根技術「空中挿し木法」により、通年のコンテナ苗生産を可能に



斬新な発想で1人1日400本の植栽も可能に

出荷規格外の露地苗を紙ポットで育成することで90%の高い得苗率を確保。また、背負い式コンテナ苗用植栽機「ほるほるくん」実用化への共同開発にも参画

林福連携の取組

長倉さんは、苗木生産を始める以前から、「障がい者の方と共に働くにはどうしたらいいか…」と考えていたそうです。そんな想いが形になったのは令和2年3月。宮崎市の福祉施設と連携し、苗木生産作業を障がい者の方々に行ってもらう取組をスタートさせました。

現在、13名の従業員のうち6名が障がい者の方で、主にコンテナ苗の穂木の調整や挿し付けを行っています。

長倉さんは、「この賞を機に、県内の林業や苗木生産が発展していければ」とおっしゃっていました。



長倉良守さん
（株式会社長倉樹苗園代表）

平成10年 父親から苗木生産業を継承
平成21年 株式会社長倉樹苗園 を設立

県内スギ苗木需要550万本の16%（令和3年度時点）を供給する中核的な生産者です。



第61回 農林水産祭式典

11月23日（水）明治神宮会館で開催された式典の様子。農林水産大臣賞392点の中から、内閣総理大臣賞に選ばれました。



現地調査

苗木生産の作業風景

[林務課]

農産園芸特産物総合表彰式

県では、米（2部門）、野菜、花き、果樹、茶、葉たばこの7部門について優秀な成績を収めた農業者及び団体の表彰を行っています。

令和4年度は、中部地区から4部門9名の生産者が知事賞を受賞されました。また、そのうち2名は農林水産大臣賞をダブル受賞され、2月6日（月）に県庁講堂で表彰を受けられました。

◆ 野菜共進会

個人部門 優等 蔵田政範（きゅうり・宮崎市）
優等 楠木雄一（ピーマン・国富町）

◆ 花き共進会

経営部門（個人）1等 有限会社大城農園
（オリエンタルユリ・宮崎市）

◆ 茶共進会

産地賞 宮崎市（普通蒸し煎茶）

◆ 葉たばこ共進会

優等 関谷昌幸（国富町）
1等 高橋和男（宮崎市）、高野幸一郎（国富町）
2等 斉藤誠司（宮崎市）、野崎英明（宮崎市）

知事賞と農林水産大臣賞を W受賞された皆さま



国富町 関谷昌幸さん
（葉たばこ）

良質堆肥の利用等により天候に左右されにくい力強い葉たばこ生産を実践。積極的な新品种・新技術の導入など先進的に取り組まれています。



宮崎市 蔵田政範さん
（きゅうり）

きゅうりの生理学や自らの栽培管理技術などの研修会を企画。町内外の新規就農者の経営安定のために尽力されています。

[農畜産課]

消防始め式

1月7日（土）、寒風吹きすさぶ綾町三本松河川敷において、綾町消防始め式が開催されました。

地域防災の要である消防団員が、一糸乱れぬ行進やきびきびとした通常点検（隊列や姿勢等の点検）を披露したほか、最大の見せ場である色とりどりの一斉放水では、見学者から大きな歓声があがりました。

宮崎市消防局によると、昨年管内（宮崎市、国富町、綾町）では、前年比20件増となる130件の火災が発生しました。

昨年1月、4月の綾町林野火災や、9月の台風第14号などの災害でも、住民の方々への避難の呼びかけや避難所の運営など、消防団の皆様の活躍が大きな支えになりました。

冬から春にかけて、空気の乾燥や強風等による火災の発生が多くなる中、地域防災力のより一層の充実・強化が期待されます。



知事表彰を受けられた
福富貴裕さん（第5部部長）



通常点検の様子。今年の優勝は第2部（淵本優生部長）



消防車による一斉放水。その勇姿に大きな歓声があがります。管内では、綾町のほか、1月8日（日）に宮崎市、1月14日（土）に国富町で出初式が実施されました。



【総務課】

宮崎市総合防災訓練

1月29日（日）、南海トラフ大地震を想定した総合防災訓練が宮崎市大淀川市民緑地で開催されました。



35の関係機関・団体から約200名が参加

3年ぶりとなるこの訓練では、消防・自衛隊・警察をはじめ、ライフライン、建設業協会等の関係機関・団体から約200名が参加し、倒壊家屋やビル、埋没車両からの救助やライフライン復旧など29の訓練が行われました。

本番さながらの緊張感あふれる訓練となり、改めて災害対応関係者への感謝の念が深まりました。



【総務課】

山火事を防ぐ

雨が少なく乾燥する1月から3月は、山火事が多発します。県では、山火事予防意識の啓発を図るため、全国山火事予防運動（3月1日～3月7日）に先駆け、1月から宮崎県山火事予防運動を展開しています。



中部地域でも、山火事予防強化週間の初日となる1月25日（水）、宮崎市・国富町・綾町において、火の取扱いに注意するよう呼びかける山火事予防パレードを行いました。

令和4年4月10日に綾町で発生した林野火災。20ha以上を焼失しました。



出発式で宣誓する谷口匡史さん（宮崎中央森林組合）



国富町



綾町

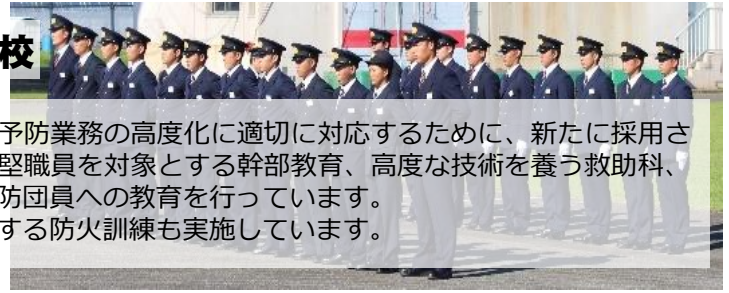


宮崎市

【林務課】

中部地方連絡協議会（中部地連協）は、中部地区にある県の37の出先機関で構成された組織です。
今回は、「消防学校」と「防災救急航空センター」を御紹介します。

消防学校



消防学校は、複雑多様化する災害や救急業務、火災予防業務の高度化に適切に対応するために、新たに採用された消防職員に対する基礎的な教育訓練をはじめ、中堅職員を対象とする幹部教育、高度な技術を養う救助科、救急科等の専科教育のほか、地域防災の一翼を担う消防団員への教育を行っています。
また、一般の企業等の自主防災組織の方々を対象とする防火訓練も実施しています。

教育訓練概要

消防職員関係

初任科、初級幹部科、中級幹部科
予防査察科、危険物科、火災調査科
警防・特殊災害科、救助科、救急科

消防団員関係

消防団員に対する基礎教育
団長研修、幹部教育
移動消防学校（現地教育）

その他の研修

自衛消防隊員研修
一般事業所等に対する防火訓練

訓練風景

初任科教育

新規に採用された消防職員に対し、職務遂行に必要な基礎的教育訓練を行っています。
初任科生は、半年間、同期の仲間と消防学校内の寮で共同生活をしながら、消防人として共に成長します。同期の絆は、卒業後も続きます。

規律訓練（礼式）

礼節を明らかにして、規律を正し、隊員の品位の向上を図るとともに、和衷協同して隊員の団結を強固にし、消防一体の実をあげることを目的に行います。

訓練

消火訓練、救助訓練、救急訓練など基礎的な訓練を実施します。

体力錬成
災害現場では強靱な体力が必要です。
半年間、しっかり身体を造ります。



専科教育

現役の消防職員に対し、専門的な教育訓練を行っています。
複雑多様化する各種災害に適切に対応するための知識と技術を習得します。

火災対応訓練

建物等の火災対応に関する訓練



CBRN訓練

化学テロ等の特殊災害に対する訓練



山岳遭難救助訓練

山岳誘図など山岳における捜索・救出訓練



震災対応訓練

要救助者捜索・救出訓練



電気事故

エレベーター事故の宙ぶり救助訓練



水難救助訓練

シュノーケリングや潜水器具取扱訓練



消防団員教育

消防団は、市町村の非常備の消防機関です。その構成員である消防団員は他に本業を持ちながら「自らの地域は自ら守る」という精神に基づき、消防活動を行っています。
地域防災の要である消防団員に対し、基礎教育、幹部教育、特別教育を実施しています。

基礎教育（普通科）

入団3年未満の団員に対し規律訓練などの基礎訓練を行います。

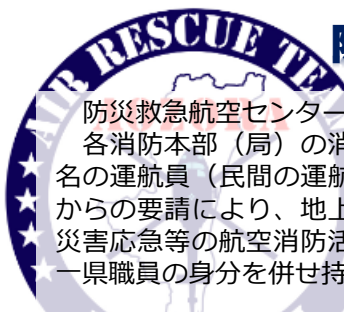
幹部教育（指揮幹部科）

災害現場でリーダーとなる団員に対し指揮者に必要な知識・技術の習得を図ります。

特別研修（オフロードバイク研修）

災害時、機動力を発揮するオフロードバイクの操作技術を指導します。





防災救急航空センター AIR RESCUE TEAM MIYAZAKI

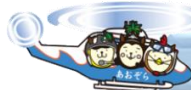


防災救急航空センターは、平成17年の「あおぞら」の導入とともに発足しました。各消防本部（局）の消防士の中から選考、派遣された8名の航空隊員及び操縦士、整備士等の5名の運航員（民間の運航会社へ委託）からなる「防災救急航空隊」が、365日、各消防本部（局）からの要請により、地上からだけでは困難な消防、救急活動について、空から救急・救助・消火・災害応急等の航空消防活動を行い、地上活動の支援を行っています。8名の航空隊員は、県内で唯一県職員的身分を併せ持つ県の消防士です。

全国で4件の消防防災ヘリの墜落事故が相次いで発生し、26人の航空隊員等が殉職したことから発出された消防庁長官告示を受け、航空センターは、令和3年4月から独立した出先機関として再編成され、一層の安全運航管理体制及び航空消防防災体制の充実強化に取り組んでいます。



令和4年度職員



「あおぞら」の主な活動

航空救急活動（空の救急車）

中山間地域等で発生した急患や交通事故の傷病者の搬送、高度医療機関への転院搬送を行っているんだ。医師や医療資機材を載せて現場へ飛行することもあるよ。



医療資機材



ストレッチャー



大阪府新仁病院への転院搬送



宮崎市双石山 救助・救急搬送



日南市酒谷 医師現場投入、救助・救急

航空救助活動（空からのレスキュー）



エバック・ハーネス

ホイスト装置

登山中の滑落や道迷い、林業作業中の事故やサーフィン、釣り、プレジャーボート等での水難事故で、ヘリから捜索し、発見したらホイストという救助装置で救助を行うんだ。



延岡市比叡山 登山救助



日之影町 林業事故救助



延岡市島浦町 水難救助

火災防御活動（空からの消火）

林野火災において、空中からの消火・情報収集や、消火資機材・人員の搬送を行っているんだ。



ドロップタンク（↓）による散水



ダムでの自吸水



バンビバケット（↑）による散水

綾町 山林火災

災害応急活動（被害状況の調査）

高性能カメラ

台風や地震の際に、被害状況を高性能カメラで撮影し、災害対策本部へ映像を送ったり、緊急物資・医薬品等運んでいるよ。



台風14号 上空調査



台風14号 物資投入



新燃岳 上空調査

ホイストドクター

「コードブルー」でおなじみのドクターヘリ！本県で運航している宮崎大学救命救急センターの医師が定期訓練を受け、航空隊員と共にホイストでヘリから降下し、現場でいち早く救命処置を行うこともあるんだ。航空隊員のうち5名は、救命救急士の資格を持っているよ。



ホイストDrと降下



定期訓練

航空隊自隊訓練、合同訓練等の実施



「航空隊」は、リスクが高い活動を行うため、安全・迅速に活動が行えるように天神ダム訓練場での自隊訓練、消防本部（局）との合同訓練の他、関係機関との訓練を行っているんだ。



バランダ 救助訓練



県立宮崎病院訓練



消防合同訓練

新しい機体更新の検討と大規模災害への備え

現在、「2代目あおぞら」の導入に向けて、今年度から危機管理局とともに検討を始めたところです。今後は大規模災害に備えた重点的な訓練も行き、宮崎県内の安全を空から守っていきます！



あおぞら



おっばいに優しいベジフルランチ

みやざきの食と農を考える県民会議～食育ティーチャー事業



母乳で子育てをしていますが、「母乳に良い食事」となると知る機会が限られ、誤った情報から乳腺炎などのトラブルになってしまうことがあります。特に新生児がいると、外出もままならない上に、昨今の新型コロナの影響で、相談の場も限られているのが現状です。

そこで、母乳育児を行っている親子を対象に、体に優しい食事の紹介を行うことで、母乳育児に対する不安の解消を少しでも取り除くと同時に、専門家に相談できる場として、食育講座を行いました。

講座では、食育ティーチャーのNPO法人ベジフルバスケット（代表 矢野智香子さん）が講師となり、母乳成分の変化やおいしい母乳の条件などについての助産師からの説明や、「おっばいに優しいランチ」の調理指導を行いました。

食育 ベジフルバスケット



同じ悩みを抱える者同士、忙しい育児の合間のひとときを、ゆっくりくつろぎながら過ごしていただきました。

Today's Menu

- 豆腐そぼろのビビンバ丼
- キュウリのカレー炒め
- ポテトの和風お焼き

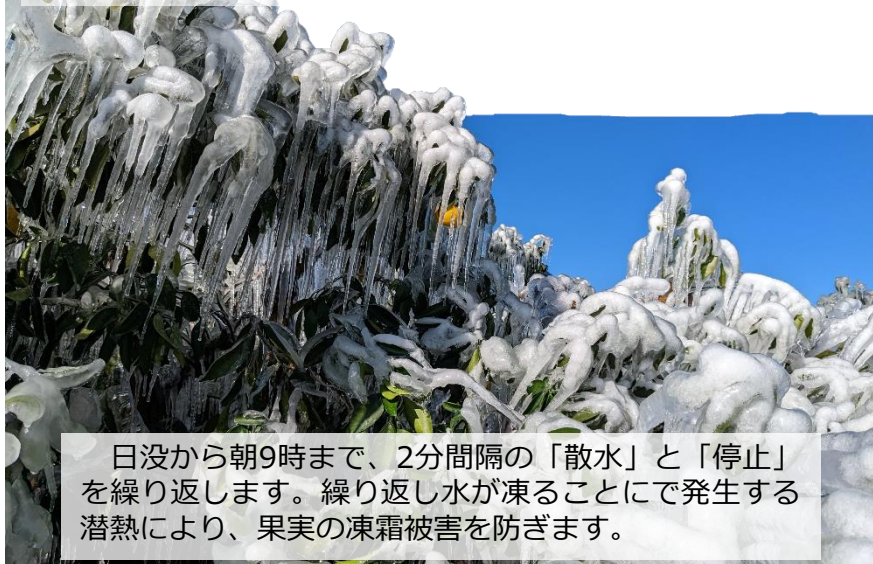


- 主食たっぷり
- 魚介類と大豆製品からタンパク質を摂取
- できる限りの油脂類除去
- おいしい母乳（血液）のためにお野菜たっぷり

※「MVP350」は、「1日350gの野菜を食べて健康になってもらおう」という宮崎市の取組です。（元気の芽No.34で詳しく紹介しています）

日向夏、氷結

この冬一番の寒気が日本を襲った1月25日、綾町の日向夏園地では、果肉が凍結でスカスカになる「す上がり」を防止するため、スプリンクラーによる「散水氷結法」で日向夏の凍霜対策を行いました。



日没から朝9時まで、2分間隔の「散水」と「停止」を繰り返します。繰り返し水が凍ることによって発生する潜熱により、果実の凍霜被害を防ぎます。

